

2018年11月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 花植木研究室
	職名及び氏名	研究員 室田 有里
題名	夏の花壇を彩るペチュニア優良品種	

千葉県は花壇苗類全体の作付面積が 126ha（農林水産省統計）であり、作付面積及び出荷量ともに全国第2位の大産地です。中でも、ペチュニアは夏の花壇を飾る主要品目として県内の多くの花壇苗生産者が栽培に取り組んでいます。花色、草姿ともに多様な品種が育種されて人気が高い一方で、同時期の他品目より雨や蒸れ、暑さに弱いため、花壇の美観を維持しやすい品種が求められています。そこで、第63回全日本花卉品種審査会（平成29年5月22日定植、同7月27日審査）として生育・開花特性と、梅雨越し後の花壇の観賞性から本県での栽培に適したペチュニアの新品種を選定したので紹介します。

種苗会社各社より出品された17品種のうち、露地圃場に定植した際の株のまとまり、花の傷みや株内部の葉枯れ症状の有無、開花数、被覆率から「スーパーチュニア ビスタ チャームパープル」(株)ハクサン(図1)、「YES! イエロー(旧系統名 GB60-1)」(株)ミヨシグループ、「サルサ ピンクモーン」タキイ種苗(株)、「スーパーチュニア ビスタ パープル」(株)ハクサン、「サルサ パープル」タキイ種苗(株)の5品種が入賞しました。入賞品種は審査時の被覆率が100%であり、葉枯れ・黄化が少なく、高い観賞性を有しました。平成29年度は梅雨明けが7月6日と例年より2週間早いものの降水量は多く、その後、審査日までは高温・乾燥の気象条件が続いたため、蒸れや病害への抵抗性及び、これらからの回復力が高い品種が高評価を得ました。

今回の入賞品種は消費者満足度が高い品種であると考えられますので、今後の生産ラインナップに加えてみてはいかがでしょうか。



写真 1等特別賞を受賞した「スーパーチュニア ビスタ チャームパープル」